



松野翔子

建築設計計画研究室

東京都世田谷区北沢  
小田急線下北沢駅

主要用途 商業施設  
階数 地下1階  
地上3階

# Shimokitazawa Marck-e-T-One

## < concept >

ただ駅商業施設とだけ利用してもらおうのではない、下北沢に訪れた人々や地域住民が憩いの空間として利用できる空間設計を目指しました。また、現在、利用者と通行人がお互いに満足に使えなかった駅とその周辺の空間を整理しようと考えました。この施設は様々な、人々に利用され、下北沢の人々に愛着の持ってもらえる施設になってもらいたいです。

## < prolog >

現在下北沢は小田急線下北沢駅が2013年3月に地下化し、新駅舎の改築工事が進み大きな変化をしています。この計画に対し、地域住民からは沢山の賛否両論あり、なれ親しんだ下北沢駅なくなり、戸惑う人が多いこの下北沢駅地下化計画。この計画に対し、地域住民が利用しやすく、親しみやすい駅舎跡地の利用計画をしようと下北沢駅の設計計画に挑みました。

下北沢という町のイメージを考えると、「若者の町」「商店・人々が賑わっている」や「演劇の町」等、様々なものがごちゃごちゃし、細々とした町並みであるという事が思い浮かびます。しかし、これからできる新駅舎の計画は改札階が地上1階に、そして、2階が商業施設となり、大きい箱型のヴォリュームがどんとたちます。私はこの計画に下北沢の町の景観とのギャップを感じました。また東北沢～世田谷代田間に計画されている緑道分断してしまう様になる事に違和感を感じました。

そこで私は改札階を地下1階に設け、ただ大きいヴォリュームを設けるだけでなく、分散させた箱の積み重ねを作るような施設を計画し、またそれを高低差がある、敷地北側に寄せるようにしました。こうする事により、1階には広場を設ける事ができ、分断された緑道をつなげ、新しい人の流れを作る事が出来ました。

また、今まで二方向にしかなかったこの区間の通路を新しく階段を設ける事により、屋上庭園を中央の広場方向にも降りられる事が出来るようになりました。

施設の用途としては主に店舗が入り、主に商業施設として利用をしてもらいますが、

## < design >

白い壁と木の床、そして豊かな緑。シンプルなか木や緑をいれ、空間に心地のよさを持ってもらおうと考えました。町並みに合わせた、分散させた箱の積み重ねは広場側に向けた面がガラス貼りになっており、施設の利用者は建物の中から広場を覗けるようになっています。また、北側の奥の方は光が差し込みにくいと考え、天井部にルーバーのついた天窗を設けました。

広場の道は住民たちのワークショップによって作られます。下北沢の大きな変化に戸惑う住民達が新しくできる、新駅舎計画に携わる事によって、戸惑いが緩和され、愛着のもってもらえる空間になってもらえる様にと考えました。

タイルは緩急がついたデザインになっています。様々な大きさに仕切られた広場では広場全体を使って、地域住民が行事を行ったり、ストリートパフォーマーが様々な個性を表現する場としてそれぞれに合った使い方をしてもらえる様にしました。

